

国際保全パートナーズ

# UAPACAA

Unified Action for Promoting Animal Conservation in Asia and Africa

Maison Allouette A-4

1461-265 Nagae, Hayama-machi, Miura-gun, Kanagawa 240-0113, Japan

Phone: +81(70)4486-6609

## 2018年度上半期事業報告

法人の名称 NPO法人UAPACAA国際保全パートナーズ

1. <まとめ> 各事業活動方針にかかる報告（2018年8月～2019年1月分）
  1. カメルーン、ブータン、およびコンゴ民主共和国の連携先とプロジェクトを推進する。

カメルーン現場との連携：事務局長の岡安が、ロベケ国立公園のゴリラ・ツーリズム振興と密猟対策支援について、WWF カメルーンと協議を継続している。

    - ・2018年12月初旬に、クラウドファンディング大手の Ready for から「国際協力活動応援プログラム (Readyfor VOYAGE)」の挑戦団体勧誘があった。応募したところ採択されたので、1月より「WWF ロベケプロジェクトへのランドクルーザー支援」で企画準備を開始した。目標金額 400 万円、4月22日公開～6月末まで60日間募集予定。
    - ・保全研究活動 (SATREPS プロジェクト) の立ち上げ；2018年8月より、カウンターパート機関 IRAD との協働で、Gribe を中心に基礎データ収集のためのフィールドワークが本格的に開始された。岡安はアドミン担当のため、関係省庁の人脈などの情報収集を行っている。

コンゴ民主共和国 (DRC) 現場との連携：DRC 大統領選 (2018年12月末実施) とその後の政情の経過観察中であるが、おおむね落ち着く方向と見られ、JMC からの移管寄付を使った、バリ地区のプロジェクト支援を検討する。

    - ・2018年12月に、長年、協力関係にあるキンシャサ大学 (ERAIFT) の Raymond Lumbuenamo 教授が、当法人の三砂理事 (津田塾大学) の招きで来日。この機会に、ボノボ保護に向けたコミュニティ開発にもっとも効果が見込める、森林再生と有用作物栽培のプラン (人材育成とマイクロファイナンスへの支援) について提案を受けた。DRC 現地で、WWF (ボノボプロジェクト) や MMT よりも、コミュニティに技術指導などで貢献できる協働先が必要な内容であり、計画を再構成する必要がある。

ブータン現場との連携：今期支援活動は、JMC の支援期間である 2018年12月末まで継続した。1月末に WWF ブータンより活動報告及び最終会計報告が届いたので、活動報告に関しては内容を確認し、適宜、UAPACAA 広報素材としても活用していく。

    - ・ブータンの TraMCA プロジェクト・マネージャー (Phurba Lhendup) が、2018年10月一杯で WWF インドチャイナのランドスケープ・マネージャーとして転出したため、現在は Wildlife Practice 担当が代行している。
    - ・ブータンの自然保護行政の枠組みが、「Bhutan for Life」(<http://www.bfl.org.bt/>) の立ち上げによって大きく変わり、国土の半分以上を占める保護区内の活動は、資金調達も含めブータン

政府が直接、担当することになった。ブータンの WWF (US 直営のオフィス) も、これによって NGO としての役割分担の見直しを迫られている。加えて、WWF ネットワーク内でのプログラム構成の変更に伴う WWF ブータンの体制変更もあり、Phurba の後任がなかなか決まらない様子である。現行の TraMCA の越境保護区構想の中期活動計画は、2016 年 7 月～2019 年 6 月となっており、今後の展開について WWF ブータンと協議する必要がある。

2. アフリカやアジアの生物多様性保全上の重要地に関する、HP 等を通じた情報発信を活発に行い、国際保全活動の普及啓発に貢献する。

- ・ 2018 年 10 月より、アフリカやアジアのフィールドに興味を持つ、上智大学の学生に広報の記事づくり等のアシスタントとして、週一回アルバイトをお願いした。英仏語が堪能で、情報収集をして簡単な記事にまとめる作業など手早く行うことができるので、当面は若手職員の採用は見合わせることにした。
- ・ WWF ジャパンで、自然保護活動や資金調達、広報など、幅広い経験を持つ OB に、「シニアアドバイザー」の立場で、月 1 回程度、広報アシスタントの翻訳チェックや用語の使い方講習などをお願いしている。2019 年 5 月ごろから、他の業務も委託する予定となっている。
- ・ カメルーンで Weebly (<https://www.weebly.com/home/>) のウェブサイトが閲覧できる、サテライトの WiFi システムが見つかり、10 月より公開サイトの準備に取りかかった。12 月に公開し、オンライン会員登録も可能になったが、記事内容の校閲や会員特典の詰めに時間が取れず、まだ本格的な宣伝は行っていない。Ready for のクラウドファンディングに向け、外部広報体制を整える。

<https://www.uapacaa.org/>

3. 特例認定 NPO 法人認可を、期末に申請できるよう準備を進める。

会員募集の本格告知が遅れており、賛助会員は WWF ブータンファンの方がお一人、自主的に入会手続きを取ってくださったところで止まっている。クラウドファンディングを通じた広報効果の動向を見極め、岡安の 6 月の一時帰国中に認可申請の方針を固める。

2 個別事業内容に関する報告：下半期に補正予算を組む予定であり、期末にまとめて報告する。

2018 年度上半期予算進捗に関しては、中間決算書を添付する（会計監査は期末決算時一回のみとする）。

以上

国際保全パートナーズ

# UAPACAA

Unified Action for Promoting Animal Conservation in Asia and Africa

Maison Allouette A-4

1461-265 Nagae, Hayama-machi, Miura-gun, Kanagawa 240-0113, Japan

Phone: +81(70)4486-6609

## 2018年度下半期(2019年2月~7月)事業報告

法人の名称 NPO法人UAPACAA国際保全パートナーズ

<まとめ>

- ・2019年6月23日に臨時総会を逗子市にて開催し、2019年度(2019年8月~2020年7月)事業計画と予算の承認を受けた。
- ・2019年4月に組んだ補正予算(「(2) その他の事業予算」を無し)で申請していた法人県民税均等割減免申請は、6月25日付で承認され2018年6月15日~2019年3月31日の期間は免除された。
- ・Ready forで「WWF ロベケプロジェクトへのランドクルーザー支援」を実施。5月28日~6月28日の超短期募集で、最終的に379人から5,033,000円の支援を得て無事に成立した。
- ・このフォローアップのため、保留していた専従の Conservation Officer の採用が課題となっている。

### 1 事業活動方針にかかる報告(2019年2月~2019年7月分)

カメルーン、ブータン、およびコンゴ民主共和国の連携先とプロジェクトを推進する。

「2 事業内容」に沿って、以下に報告する。

#### (1) 特定非営利活動に係る事業

##### ① アフリカ熱帯雨林の保全と野生動物保護支援に関する事業

ア カメルーン共和国南東部州の大型類人猿と生物多様性の保全活動

1. ロベケ国立公園の大型類人猿エコツアーリズム振興支援
2. ロベケ国立公園生物多様性モニタリング

- ・クラウドファンディングの結果を加味して、事務局長の岡安がWWF カメルーンと協議。ランドクルーザーの調達、および2019年度活動内容と予算の大筋に合意した(支援総額:4,268,348円;うちJMCから繰り越し1,668,348円、支援期間:2019年7月1日より2020年6月30日)。

##### 3. 国際武装集団によるゾウ密猟対策への支援(クラウドファンディング)

- ・ロベケ国立公園の「パトロール車両の買い替え」資金を募る企画とした。マーケティング的には、開始直後は低調だったが、6月20日のReady forのメルマガトップ掲載を皮切りに、株式会社メンバーのFBとツイッターによる記事配信(6月25日)で盛り上がりを見せ、ツイッターからの拡散中心で、関係外からの支援が90%以上、盛り上げから達成に1週間(6月20日~26日)、達成してから大口支援が増加、など情報が集積でき、情報発信と会員獲得の展開に見通しが立った。
- ・ランドクルーザーは為替差損を避けるため、約350万円でTOYOTA ジブラルタルに直接発注し、WWF カメルーンに現物寄付することとなった(決算書>活動計算書>事業費>車両費参照)。

##### 4. 外部資金による研究と保全活動

- ・保全研究活動(SATREPS);2018年9月19日第1回運営委員会で、初年度の活動が承認されたが、

10月の大統領選挙から組閣までは、カメルーン側の活動は進まなかった。年明けからチームを編成、活動1~3ごとに協同調査を行い、日本人専門家19人、カメルーン20人の体制が構築された。

イ コンゴ民主共和国(DRC) マイ・ンドンベ州ボロボ郡におけるボノボの保護活動

- ・バリ地区のプロジェクト支援を検討するに当たり、事務局長の岡安は JICA の規定で現地に渡航できないため、現場で活動できる若手人材の投入が喫緊の課題となっている。
- ・移管した活動資金は、JICA 草の根協力支援事業への応募のマッチングファンドとして活用したい。

② 南アジアの亜熱帯林保全と野生動物保護支援に関する事業

ア ブータン南部「国境を越えたマナス保全地域 (TraMCA)」の生物多様性保全事業

1. TraMCA ランドスケープの大型哺乳類モニタリング支援
2. TraMCA ランドスケープの生物多様性調査支援
3. 地域住民の生業活動支援 (クラウドファンディング)

- ・JMC の支援より継続していた活動が、2018年12月末日で終了。2019年1月末に活動及び会計報告(年間予算6万ドル分)を受領した。活動報告については、翻訳して会員専用ページに掲載する。
- ・WWF ジャパン OB のシニア・アドバイザーが、5月より WWF ブータンとの協議を開始。上期で報告したように、国立公園管理は国家予算に移行するため、TraMCA に限らない協働を検討した。
- ・結果、ラッシュジャパンの助成スキーム(上限200万円)を活用した「Young Bhutanese Birders (YBB) プロジェクト」の環境教育支援企画が提案され、6月末のメ切に向け準備開始。しかし、準備不足で応募が間に合わず、若手職員の採用を待って、再度申請を行う予定。
- ・ブータンの活動をアピールするクラウドファンディングは、企画の協議が必要で次期に延期した。

アフリカやアジアの生物多様性保全に関する情報発信を行い、国際保全活動の普及啓発に貢献する。

- ・クラウドファンディング準備で、Ready for と広報展開を検討。HP (<https://www.uapacaa.org/>) と Ready for のプラットフォーム(新着情報など)を連携し、情報発信を充実させるブログ発信に合わせた Facebook ページ (<https://www.facebook.com/uapacaa4yourpartner>) 立ち上げ、ツイッターアカウント (<https://twitter.com/uapacaa>) の活性化(フォローを増やす)などを行った。Instagram や YouTube アカウントの活用はポテンシャルが高いが、国際的な権利関係も考慮の必要があり、今後、活動の現地からできるだけ自前の画像、映像を取得して、展開を進めたい。
- ・6月の岡安の一時帰国中に、HP からのオンライン会員登録を活用した会員募集を、まず知人等に働きかけた。結果、オンライン登録を敬遠する、面倒だと感じる層が予想以上に多いことが判明した。
- ・他方、Ready for の支援者はほとんどがオンライン登録とクレジットカード決済で、これから賛助会員勧誘を行う上では問題が少なく考えられ、新たなパートナーとして重要である。

特例認定NPO法人認可を、期末に申請できるよう準備を進める。

- ・前期の事業報告と決算の承認を待って、申請手続きの詳細を詰める。
- ・2019年8月末現在で、正会員12人、賛助会員32人(38口)となっている。クラウドファンディング支援者の会員登録促進が、認定NPO法人としての基盤を整えるひとつの鍵となる。

※ 今期予算(2018年8月~2019年7月)に関しては、決算報告書と監査報告書を添付する。

以上